



実践型工学技術者育成における教育成果の

評価のあり方に関する調査研究

「実践型工学技術者育成における教育成果の評価のあり方に関する調査研究」が平成 21 年度 文部科学省「先導的大学改革推進委託事業」に採択されました。

文部科学省 先導的大学改革推進委託事業の目的

教育現場の実態に即した新たな教育手法の開発や具体的な導入方法等の先導的調査研究を委託し、これらの成果を今後の国公立を通じた高等教育行政施策の企画立案及び改善に資するとともに、成果を広く公表することにより各大学の取組を支援・促進し、大学改革の一層の推進と教育の質の向上を図ろうとするものです。

文部科学省 先導的大学改革推進委託事業

「実践型工学技術者育成における教育成果の評価のあり方に関する調査研究」

社会経済的価値創造すなわち「イノベーション」を支える実践的技術者育成のための、専門工学教育と工学リベラルアーツ教育のバランスのとれた、実質化された工学教育プログラムを構築し、普及させるためには、その体系化のための方法論、効果の測定手法とその実施体制の提示が必要となってくる。

実施方法（アプローチ方法）及び分析手法について

- 1、実質化された工学教育体系とその効果測定手法、およびそれらの実施体制について、国内外におけるベストプラクティス事例の調査を行い、モデル工学教育プログラム構築に必要な事項を提言としてまとめる。
- 2、調査結果を踏まえ、これまでほとんど無かった工学リベラルアーツ教育に使用するための「モデル教科書」の編纂、その試運用と学生に対する効果の測定を提案する。

実施体制

芝浦工業大学（幹事校）・東京電機大学・工学院大学の 3 大学による合同調査研究チームを編成